



平成 24 年 3 月 16 日

早期咽頭癌をターゲットにした内視鏡検診（スベック検診）を開始

＜概要＞ 岡山大学病院光学医療診療部では、発見が困難な咽頭表在癌（早期咽頭癌）の早期発見、早期治療を目的とした内視鏡検診（スベック検診）を始めます。

背景：咽頭癌のほとんどは既に進行した状態で発見されるため、手術を行った場合は声を失うなど、術後の患者負担が大きくなります。早期に発見されれば咽喉頭を温存できる内視鏡治療が可能であり、患者にとってのメリットは計り知れませんが、疾患の特異性により早期発見はほぼ不可能なのが現状です。この検診により早期咽頭癌の発見が増えれば、患者の QOL の改善、死亡率の低下が期待できます。

＜本 文＞

- ・ 3月下旬より岡山大学病院光学医療診療部では耳鼻科、歯科等と共同で咽頭表在癌（早期咽頭癌）をターゲットとした内視鏡検診（スベック検診）を始めます。
- ・ 咽頭癌は喫煙、飲酒などと深く関連がある疾患で近年増加傾向にあります。
- ・ 咽頭癌のほとんどは既に進行した状態で発見されるため、手術を行った場合は声を失うなど、術後の患者負担が大きくなります。早期に発見されれば咽喉頭を温存できる内視鏡治療が可能であり、患者にとってのメリットは計り知れませんが、疾患の特異性により早期発見はほぼ不可能なのが現状です。
- ・ 今回我々は、咽頭表在癌発見に有用な特殊な画像強調技術（Narrow Band Imaging）を装備した最新の高解像度細径内視鏡を用いて咽頭癌に特化した検診をはじめます。
- ・ 従来の内視鏡検査（胃カメラ）とは異なり、検査の苦痛を軽減する特殊なマウスピースを用いて咽頭のみを短時間で観察を終了するため、被験者の負担は非常に少なくなります。
- ・ 岡山大学病院では光学医療診療部、耳鼻科の合同チームが内視鏡治療（ESD）をおこなっており、早期に見つかれば ESD を行うことで咽頭喉頭を温存し、術後も発声可能な最新の治療を受けることができます。
- ・ このような咽頭癌をターゲットとした検診システムは世界初の試みと思われます。
- ・ 喫煙、飲酒を長年続けている方、なんとなく喉が気になる方々には積極的にこの検診を受けていただきたい。

＜お問い合わせ＞

岡山大学病院光学医療診療部・河原祥朗

（電話番号）086-235-7219

（FAX番号）086-235-7670

（Email）yoshirok@md.okayama-u.ac.jp